

平成25 (2013)年度
熊本大学大学院法曹養成研究科

第1期募集 (小論文試験問題)

試験時間 120分

頁・・・ 1～4

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
2. 試験開始後ただちに、問題用紙(この表紙を含めて5枚)、解答用紙(5枚)、下書き用紙(5枚) が、揃っていることを確認してください。
3. 解答用紙のすべて(5枚)に受験番号を記入してください。なお、氏名は記入しないでください。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入してください。解答用紙のホッチキスは、外さないでください。
5. 問題の内容に関する質問には応じません。
6. 配付された解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
7. 試験終了後、問題用紙および下書き用紙は持ち帰ってください。

課題文を読み、設問に答えなさい。なお、いずれの問題も法的知識を問うものではありません。

設問 1 課題文1 に示されている論理の組み立て方をすべて具体例を挙げながら説明し、それぞれを用いる場合に注意すべき点を指摘しなさい(800字以上1000字以内)。

設問2 課題文2に示されている「少年全体が危険な存在である」という考え方はどのような論理の組み立て方に基づくものであるか。また、その推論は課題文1にしたがえばどのように評価されるかについて検討しなさい(400字以上500字以内)。

【課題文1】 (この部分につきましては、著作権により、公開できません。)

(出典:アルベルト・オリヴェリオ (川本英明訳)『論理的思考の技術』(大和書房・2004年)44頁～47頁、82頁～85頁。なお、本文の一部及び見出しを省略している。)

【課題文2】 (この部分につきましては、著作権により、公開できません。)

(出典:浜井浩一/芹沢一也『犯罪不安社会 誰もが「不審者？」』(光文社新書・2006年)101頁～103頁。原文縦書き。なお漢数字を算用数字に転換している。)